

IX 特色ある公民館活動

吉富キッズクラブの取り組み

吉富町教育委員会教務課
主任主事 中家立雄

1 はじめに

1) 地域の概要

吉富町（以下「本町」とする。）は、福岡県の最東端に位置し、東は英彦山を源とする一級河川「山国川」を隔てて、大分県中津市と接している。また、西は豊前市、南は築上郡上毛町に接し、北は海産資源の豊富な周防灘に面した水と緑溢れる美しい町である。町域は、南北4.0km、東西1.8km、面積5.68km²と非常に小さな町ではあるが、7,076人（平成22年12月末現在）の町民は活気にあふれ、「地の利・人の利」を活かした「明るく元気なまちづくり」を目指している。

2) 基本的な考え方

本町では、町民憲章の一つに「教養を深め、伝統を重んじ、文化の香り高い町をつくります。」と掲げ、第3次吉富町総合計画（平成13年度～平成22年度）においては「心のふれ合いがある学びのまちづくり」を掲げている。主要施策は活動支援体制の整備や就学前も含む学社の連携強化、家庭教育の再生・支援などとし、吉富町教育委員会（以下「委員会」とする。）では公民館活動（社会教育活動）をとおして社会教育・生涯学習の「文化的価値」や「社会的価値」を高め、「住民一人ひとりに心の豊かさと生きがいを与えるとともに、住民相互の新たな連帯を促進し、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成」を目指している。

2 地域の現状と課題

1) 地域の実態

本町は、小・中学校ともに1校区であり、中央館にあたる吉富フォーユー会館（以下「フォーユー会館」とする。）のほか、地区館または分館を設置していないことから、公民館事業と社会教育事業を一体的に取り組んでいる。

委員会では各種生涯学習講座や講演会事業を開催するほか、フォーユー会館をはじめとする各社会教育施設を広く地域住民に開放し、活動機会の整備・充実や町内文化サークル等の活動支援など、地域における生涯学習振興を推進している。



2) 取り組み課題

現在、社会教育施設が「公民館」の役割を担い、地域住民に開かれた「活動の場」として有効的に活用されているが、住民一人ひとりが、生涯に渡り、教養を深め、健康を育み、個性を發揮して自己実現を図ることができる「生涯学習社会」を実現するためには、個々の取り組みが単に個々の資質の向上で完結することなく、個々の個性が立体的に連鎖し、一つの「地域教育力」となり、活力となって「住民自治」の促進につながることを望ましい。

そこで、「公民館」が持つ「コーディネート機能」を活かし、既に固定化しつつある活動種目や参加者、団体等において、活動内容の見直しや連携促進、多世代・多志向の住民が参加できる多種・多様な事業実施など、縦方向・横方向の「つながり」が生まれるような取り組みが求められる。

3 活動の内容

1) 活動のねらい

委員会では、多世代に渡る住民が出会い、ふれ合う「コミュニティの場」をつくるうえで、その「きっかけ」として「子ども体験活動推進事業」を実施することとした。

これは、事業をとおした異種団体間での連携や地域指導者の発掘・育成を推進するとともに、生活体験や社会体験など様々な「体験」が不足傾向にある子どもたちに、地域ぐるみで多種・多様な体験機会を提供し、学習習慣を身につけさせ、「知る」楽しさを伝え、子どもたちの「生きる力と豊かな心」をはぐくむことをねらいとしている。

2) 活動内容

I. 事業名称

吉富キッズクラブ事業

II. 事業趣旨

吉富キッズクラブ事業は、様々な体験活動をとおして、青少年の健全育成、地域教育力の向上及び地域コミュニティの醸成に寄与することを目的とする。

III. 事業概要

(1) 活動プログラム

- ① 通年・短期教室：スポーツ・文化・芸能・国際交流・農業体験など
- ② 会員交流会：キャンプ・スポーツ交流会・クリスマスイベントなど
- ③ 活動発表会：キッズフェスティバル（スポーツ発表など）
- ④ その他の事業：スポーツ大会、健康・体力づくり講習会など

(2) 事業対象：小学生・中学生及び保護者

(3) 事業運営

① 吉富キッズクラブ育成連絡協議会

- i. 平成19年2月に、実施主体として、任意団体「吉富キッズクラブ育成連絡協議会」を設立した。指導者を含む本事業の全関係者で構成し、役員として会長1名、副会長1名、理事若干名を置く。また、事務局は吉富町教育委員会内に置く。
- ii. 理事会のほか、専門委員会として体育・文化・研修・交流の各委員会を設置し、それぞれの事業の企画・運営などを行う。

② 協力団体

必要に応じて、小学校・中学校・子ども会・体育協会・文化協会・商工会（青年部）・体育指導委員会・食生活改善推進協議会・歴史文化の会・寿会連合会などと連携・協力する。

③ その他

子ども会ジュニアリーダーを各教室の指導補助員として配すとともに、イベント事業等においては、主体者として企画・実施・運営の業務を担当させるなど、青少年ボランティアの育成にも努めている。

(4) 活動日（事業実施期間は5月～2月とする。）

① 通年教室

- i. 月曜日から土曜日の間で「毎月第○、第△ ☆曜日」など、教室ごとに活動日を設定し、月に2回程度実施している。
- ii. 時間は、1回2時間程度とし、教室ごとに午前・午後などの時間帯を定めている。

② その他の事業：事業ごとに開催日時を定めている。

(5) 費用

① 会費：年会費1,000円（月額100円）

② 材料費：月額100円～300円（教室ごとに決定する。）

3 活動の成果と課題

1) 活動の成果

吉富キッズクラブ事業は、平成14年度の開設以来、30種目を超す通年教室と20種目を超す短期教室その他事業を実施し、参加児童は延べ20,000人を超える。また、200人を超す地域のボランティア指導者が、教室指導や事業運営にあたった。数字に表されているとおり、多くの子どもたちに多くの体験機会を提供し、そして、多くの出会いと交流を生んだことは、事業の大きな成果といえる。

とりわけ、キッズクラブで体験した種目の仕事に就くことを将来の夢とした者や、今もなお同種目の活動を続けている者がいることは、この事業が、単に「体験」として完結するものではなく、子どもたちに夢や目標を与えることができる「社会的価値の高い事業」であると評価している。

また、委員会事業から始まり、「実施主体の任意団体化」を実現できたことも大きな成果である。これは、多くの地域住民に「“地域ぐるみ”で子どもたちを育てる」という意識が芽生えたこと、そして、「自主活動・自主運営・受益者負担」という「住民自治の大原則」が地域に浸透しつつあることの表れであると考えられる。事実、地域における見守りパトロール等の事業へ参加する住民の増加や、事業をとおした指導者・関係者間の連携・交流が異種団体間の連携・協力につながり、さらにはそうした団体連携に基づく新たな取り組みを模索する動きにつながってきている。

2) 今後の課題

吉富キッズクラブ事業は、学校週五日制、中教審答申（平成 14 年）、総合型地域スポーツクラブ、アンビシャス運動、スポーツ振興基本計画、その他体験活動・ボランティア活動事例等を参考に計画したものである。従って、多種・多様なニーズにも、比較的柔軟に対応してきた。しかし、ここ数年、住民の価値観やニーズが大きく変化・多様化し、そのニーズを十分に把握することができず、効果的な事業展開を図れていない。

これは、時代の大きな変化に伴い多様化したニーズに対し、従前の手法による情報収集では有効的な把握に至らず、単一団体での事業対応が限界に近づいていることが、その大きな要因として考えられる。

現在、本会では「自主的・主体的な任意団体の育成」を推進している。これまでの取り組みにより、団体の自主性・主体性は、従来に比べ格段に向上したが、行政依存的な体質を解消できたわけではない。しかし、専従者のない団体が主体的に情報を収集し、ニーズを把握し、効果的な事業を独自に展開していくことは、決して容易ではない。

こうしたことから、今後の取り組みとして、地域のあらゆる任意団体、学校、家庭などの機能・教育力を集約し、一体的なシステムを構築することが必要と考える。つまり、情報はそれぞれが持ち寄り共有する。事業はそれぞれが連携して補完する。運営はそれぞれが役割に応じて分担する。そうした体系的なシステムこそが、まさに「立体的な連鎖」であり、少ない負担で大きな効果をもたらすことが期待される。そして、システム構築のための「ビジョン」と「マスタープラン」を示し、コーディネートすることが、「パートナー」たる行政の役割であると考えられる。